

大阪有機化学工業株式会社	
2019年11月期第2四半期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2019年7月5日(金) 13:00~13:50
場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区日本橋1-9-1; 野村証券本館6階)
当社出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・代表取締役社長 上林 泰二 ・常務取締役 執行役員経営企画本部長 兼技術本部・事業開発室管掌 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「会社説明会および2019年11月期第2四半期 決算説明会資料」 (2019年7月5日ホームページに掲載)

※この資料は、2019年7月5日に開催された、機関投資家向け決算説明会（2019年11月期第2四半期）における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	半導体材料が昨年12月頃から急速に悪化しているが、その回復度合いについて教えてほしい。また、液晶材料の販売の足元の戻り具合はどうか？
A-1	全体的に上期は結構揺れ動いた。10月から徐々に悪化し始め、4月に一時的に急回復したが、5月に米中の関税の件で状況が悪化した。その中で半導体関連は安定して昨年並みに推移した。また、良いタイミングで次の設備が完成して良かった。液晶は、顧客での稼働率は高かったが価格が下がって厳しかった。出荷量そのものは落ちていない。
Q-2	ちまたの報道ではメモリは10%減った等、マイナスの報道が多かったが、貴社があまり影響を受けていない理由は？
A-2	サムソンを始め半導体メーカーの売上が下がっている原因は価格低下で生産量自体はほとんど落ちていないとみている。 設備メーカーは稼働するまでがビジネスだが、我々は立ち上がった設備が順調に稼働してから本格的にビジネスになっていく、それまでに投資した分で本格的に動きだした部分があるものと見ている。 もう1点は、当社はArFがメインであるが、半導体製造工程の中で、微細化しなければいけない部分は増えているとみている。今後半導体の生産量も増えていく上、ArFの比率も増えるので、個人的には2025年までは右肩上がり伸びていくとみている。ただ、今回の韓国への輸出の問題など、短期的には色々問題はあと思うが、中長期的にみれば心配はしていない。

Q-3	原料調達についての質問。中国の江蘇省で起きた大規模火災事故の影響で、中国内の化学工場の稼働を停止する動きもあるが、原料調達面で留意事項があれば教えてほしい。
A-3	当社の購買部もかなりの頻度で中国へ出向き状況確認を行っている。 中国にしかない原料（天然物由来のもの）があり、当社も調達に苦労している。中国と日本などの複数購買を心掛けている。
Q-4	特殊原料の価格の変動と、ナフサ由来原料価格の変動を比較して、上期の原料費はどう影響したか？
A-4	ナフサ価格は少し下がっているので、ナフサ由来のアクリル酸やアクリル酸メチルなどは下がっている。 しかし、半導体関連の原料は特殊なものが多く、ほとんどナフサ価格変動の影響は少なく、それらの価格は上がっている。したがって、売り上げの割に原料は値上がりしたという状況である。

以上